

Weekly コラム

平成 28 年 3 月 29 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

Google が描く車社会

先月、米 IT 企業 Google の開発している自動運転車が、カリフォルニア州の公道で試験走行中にバスと接触事故を起こしていたことが分かりました。カリフォルニア州などでは、Google や自動車メーカーに自動運転で公道を走ることを許可していますが、今回の事故のように自動運転車の実用化に向けて多くの課題があります。

例えば、自動運転による過失が生じた場合、車の所有者と企業のどちらに責任があるのか。通常は、車の問題であるから企業に起因すると考えるのが普通です。しかし、自動運転車の所有者が独自のルートを行くように指示し、そこで事故が生じればどちらの責任になるのかは判断が難しくなります。また保険業界の問題は深刻です。今後自動運転車が普及していき、劇的に事故が減ってきた場合、保険料も大幅に減少していきます。15 年後には車の所有者が支払う保険料が約 60% 減少するという予測も出ており、保険業界の存続に関わってくる大きな問題となります。

それでも、自動運転車が普及する未来はこれまでよりも安全で効率的になります。これからは車の運転技術はそれほど必要なくなり、高齢者であっても安心して車に乗ることがで

きるため、事故が減るだけでなく、運転のストレスからも解放されます。また運搬用のトラックが無人で移動できるようになれば、配達コストも人件費も削減できます。さらに車が最適なルートを選んでくれるため、交通渋滞も緩和されていきます。

自動車運転の開発を進める Google が描く社会とは。それは Google が開発する OS を搭載した車に乗り込み、Google 検索を使って行きたいレストランを予約し、Google Maps でレストランまでの最適なルートを選び、Google のお勧め映画を社内の大画面で鑑賞しながら予約した時間に連れて行ってくれる社会。この新しいシステムを構築する日は、そう遠くないのかもしれませんが。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。